

第6回「京都市 駅周辺等にふさわしい都市機能検討委員会」 会議録

日 時：令和4年8月19日（金） 午前10時00分～午前10時45分

場 所：職員会館かもがわ 2階 大会議室

出席者：大庭 哲治	京都大学大学院准教授
佐藤 由美	奈良県立大学教授
塚口 博司	立命館大学名誉教授
辻田 素子	龍谷大学教授
中嶋 節子	京都大学大学院教授
中谷 真憲	京都産業大学教授

以上6名（五十音順，敬称略）

1 開会

2 委員紹介

——（事務局から委員の出席状況報告）——

3 会議の公開・非公開の決定

・議事について公開に決定

4 議事

○ 塚口座長

令和3年9月、「京都市都市計画マスタープラン」が10年ぶりに見直され、これまでの「保全・再生・創造」の土地利用を基本に、「保全・再生ゾーン」における京都ならではの魅力と、「創造・再生ゾーン」で生み出す都市活力を循環させることにより、多様な地域の拠点の活性化や働く場の確保などを実現し、京都市の地理的制約への対応と市域全体の持続性の確保を目指すよう方針が拡充された。同プランでは、市内周辺部等における地域の交通拠点となる「地域中核拠点エリア」の周辺に都市機能を集積し、地域コミュニティを基本とした生活圏の維持・構築を図ることとされている。このような状況を受け、昨年12月、京都市長から「地域ごとの特性を踏まえた都市機能の集積・充実や都市空間の魅力創出のための都市計画の方策」について諮問を受けた。本日、最終的にまとめられる答申では、京都市域全体を俯瞰し、どこに伸びしろがあるのかを明確にする必要がある。これまで、委員の皆様からは、それぞれの視点から忌憚のない御意見を出し合って頂き、答申案をまとめてきた。本日は答申案の記載内容につ

いて確認していきたい。

——（事務局から資料１、２に基づき説明）——

○ 塚口座長

ただ今の説明について、御意見、御質問を承る。

○ 辻田委員

京都駅周辺の記載と比較して、らくなん進都についてはクリエイティブシティに関する記述が薄い。もう少し記載を充実し、京都駅周辺からつながる面的な方向性を示せたら良い。

○ 中嶋委員

「市域全体の持続性の確保に向けた方策」は、内容ごとに項目分けできれば分かりやすくなる。また、行政と事業者に対するメッセージが強く出ているが、市民とまちの将来像を共有し、理解を得ていくプロセスが重要。

一口にクリエイティブと言っても、エリアによって特性や強みが異なるため、分かりやすく書き分けられないか。

○ 佐藤委員

「若者に選ばれる千年都市」は重要なキーワードである。本委員会では一人でも多くの方が京都に住みたい、住み続けたいと思えるような京都を都市計画の手法を用いて実現するための議論を、詳細なデータをもとにしてきたが、他の政策にも波及させていく必要がある。明確なメッセージを発信し、知ってもらう取組が重要。「事業者が当該エリアの将来ビジョンを理解し、実現化に向けて積極的に努力を惜しまないことが望まれる」という記載があり、「事業者が」が主語になっているが、行政や市民も含めた記載にした方がよい。

○ 辻田委員

地権者に対しても働きかけができると良い。

○ 中谷委員

文化芸術の持つ創造性を地域振興や観光・産業振興等に活用し地域課題の解決を図る「クリエイティブシティ」と記載されているが、「領域横断的」という重要なキーワードを追記した方が、本来の「クリエイティブ」の定義とも近くなるのではないか。

○ 大庭座長代理

今回、精緻なデータに基づき議論できたことは良かった。説得力もある。周辺市町との連携、都市計画の整合を図っていく中で、いかに独自性を発揮していくかが重要となる。

○ 塚口座長

昨年１２月以来、短期間での集中的な議論だったが、固定資産税の課税データ等を活用できたことで、これまでにない精緻な分析が可能になったことは非常に良かった。本委員会では、都市計画マスタープランの内容を踏まえ、エリアごとに案を作成した。今後その案について広く市民の皆様から御意見を頂きたい。

以上、御意見も出尽くしたので、最後に事務局から一言頂きたい。

○ 森都市政策担当局長

今回は新たな取組として、これまでにない精緻なデータに基づき、都市計画として伸びしろがどこにあるのかを正確に判断したうえで、方向性を議論して頂くことができた。本市ではこれまでから市民、企業、行政による協働のまちづくりをしてきたが、まだ途上である。短い期間であったが、委員の皆様には、今の京都への危機感と、未来への夢と希望を持ち、大所高所から貴重な御意見を頂戴したことに心から感謝申し上げる。

5 閉会

○ 事務局

———今後のスケジュールについて説明後、会議終了———

(了)